

広域災害救急医療情報システム(EMIS)

国立病院機構災害医療センター

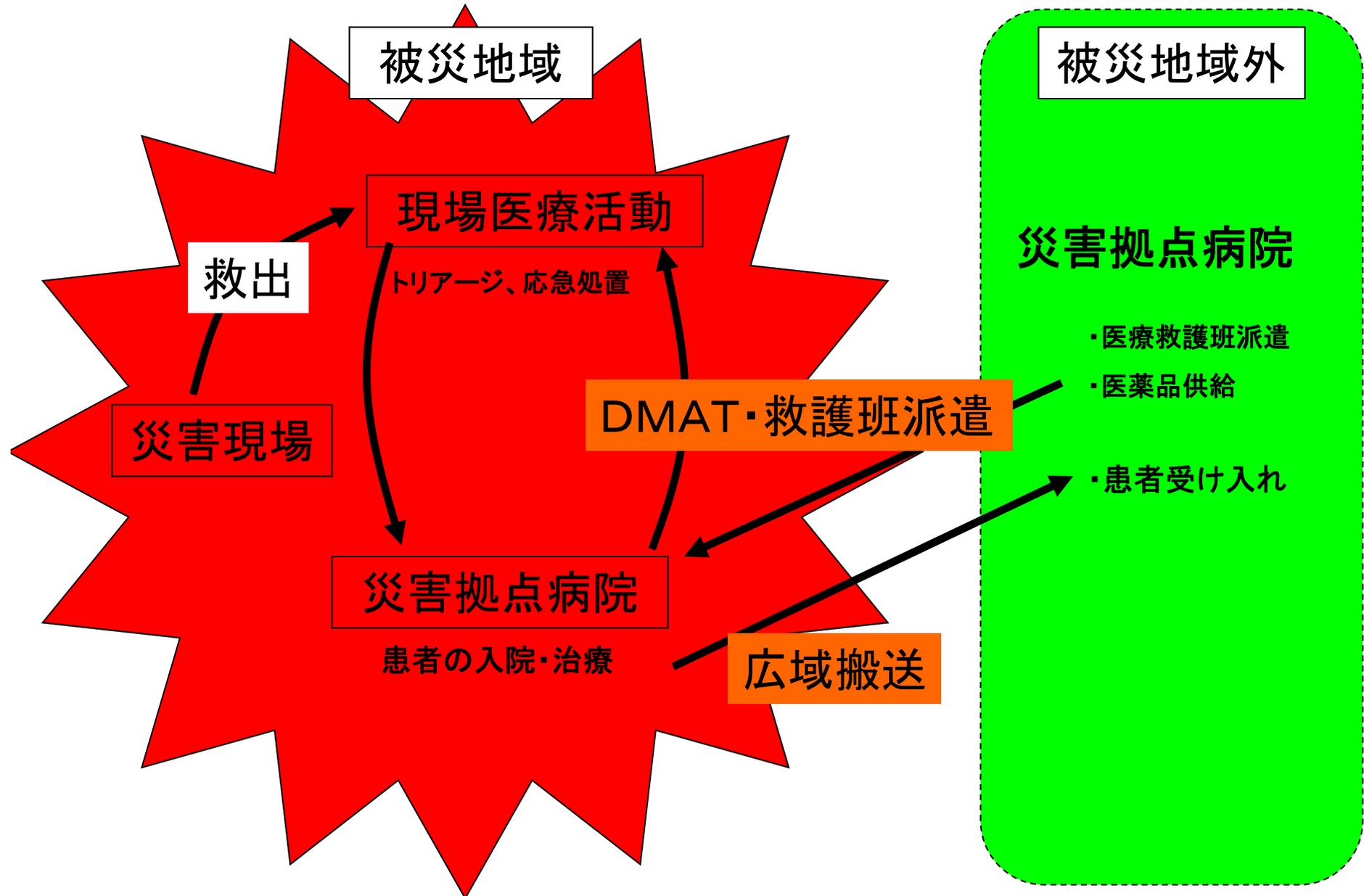
厚生労働省DMAT事務局

小井土 雄一

阪神・淡路大震災

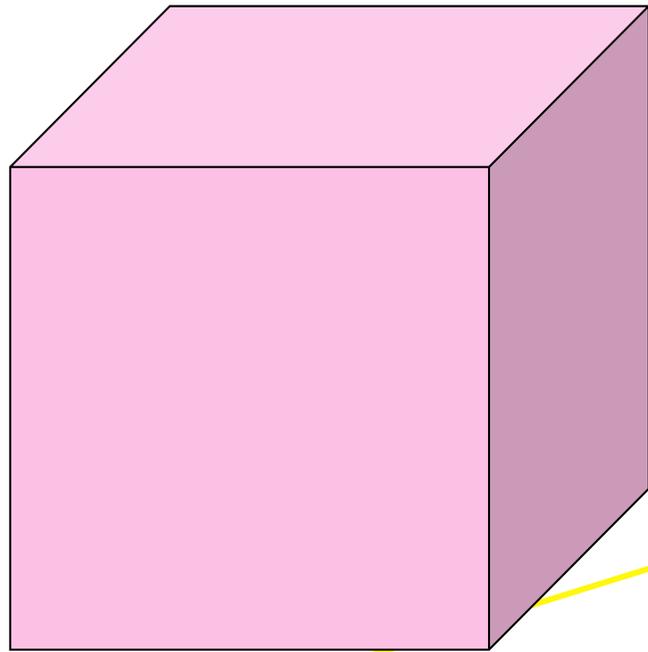
- 平成7年1月17日 午前5時46分
- マグニチュード 7.2
- 全壊家屋：104,906棟
- 被災家屋計：512,882棟
- 死者・行方不明者：6,425名
- 負傷者：43,772名
- 戦中・戦後を通じて最大の自然災害

我が国の災害医療体制

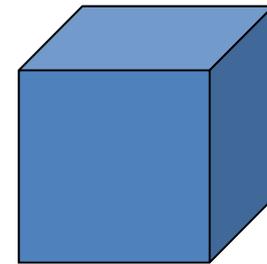


災害では

需要



資源



アンバランス

より大きな不均衡が
より壊滅的な結果をもたらす

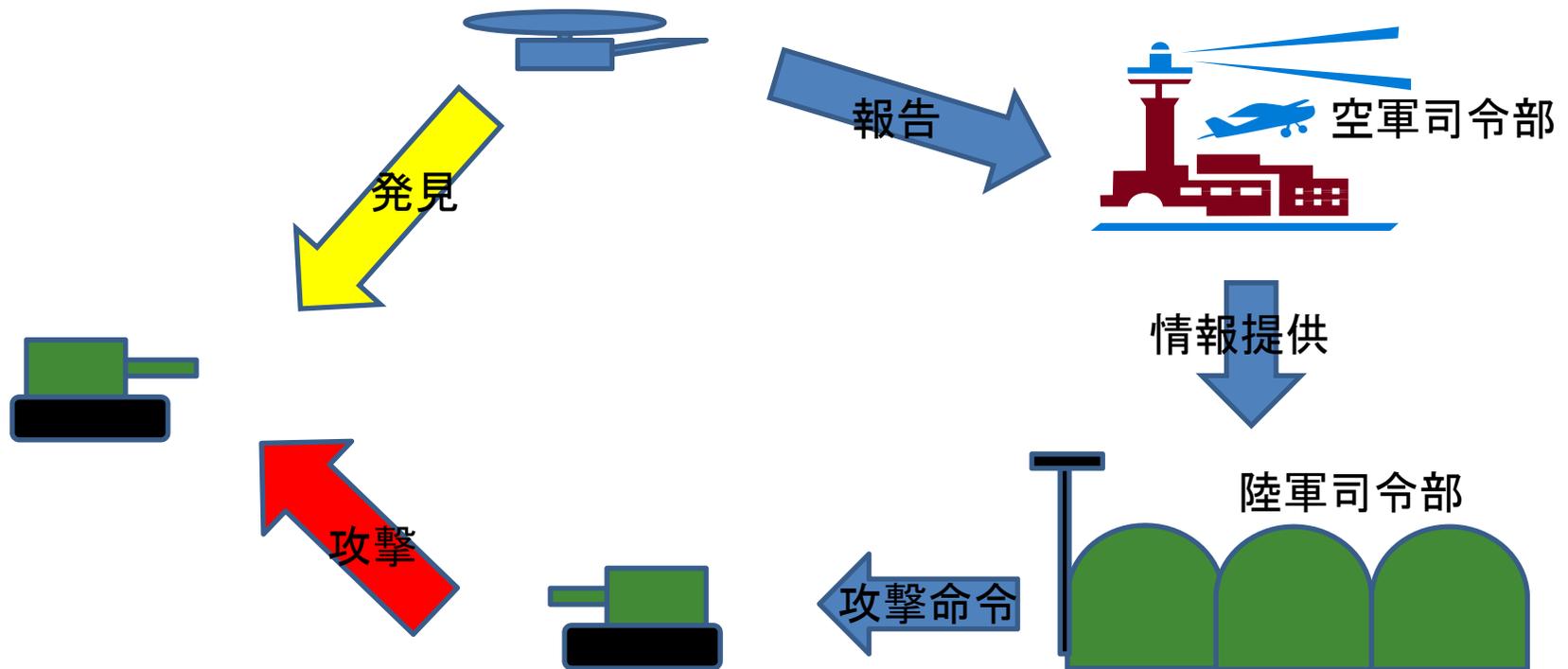


ヤマト運輸の教え

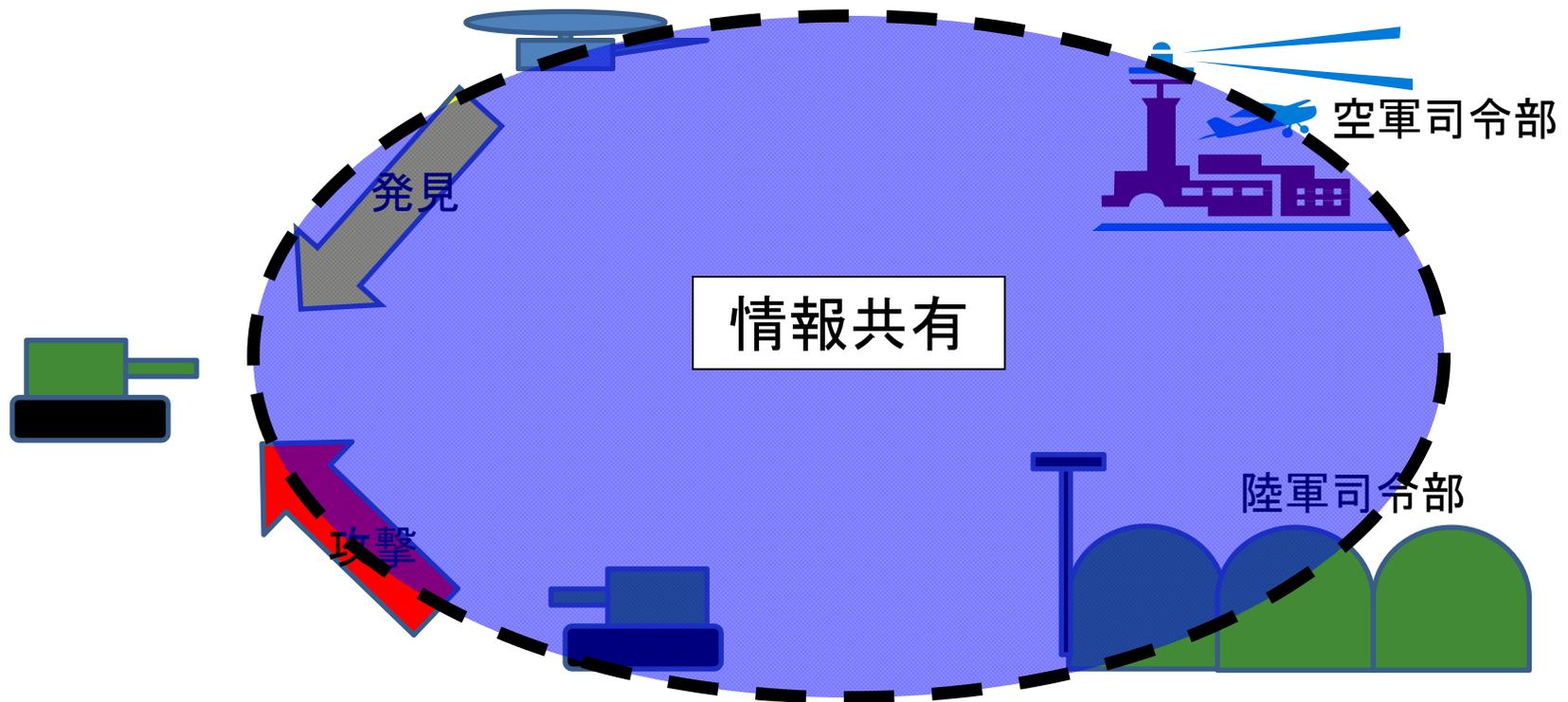
年度	発送個数	社員数	車両数
1976年 昭和51年	33千個	5,700人	3,000台
2002年 平成14年	983,938千個	101,221人	34,842台
1976年 $\times 10^4$		5700万人	3000万台
2002/1976	3×10^4	18倍	12倍

輸送直結リソース+情報管理+アウトソース

従来の運用 (Platform Centric Operation)



ネットワーク化された運用 (Network Centric Operation: NCO)



急性期災害医療体制

- 過剰ニーズに対応するために最大限の効率化が求められる。
- 日ごろは独立している地域の医療機関の組織化が求められる。
- 情報の共有により日常独立している組織間の組織化は可能。(ネットワークセントリックオペレーション)
- EMISがそのツールとなる。
- DMATは、災害医療の情報・指揮調整のインフラを確立する。

阪神淡路大震災

それぞれの医療機関が自ら『最後の砦』の決意でベストを尽くそうとした。

一人の医師が診療した患者数—地震当日—

Patients MDs Pts/MD

神戸大学附属病院

366

112

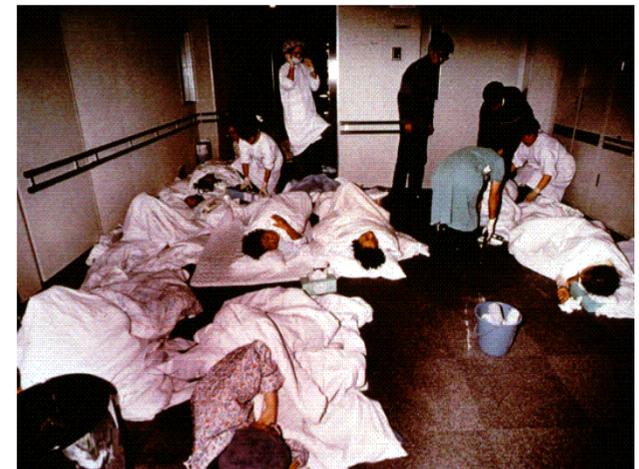
3.3

“K” 病院

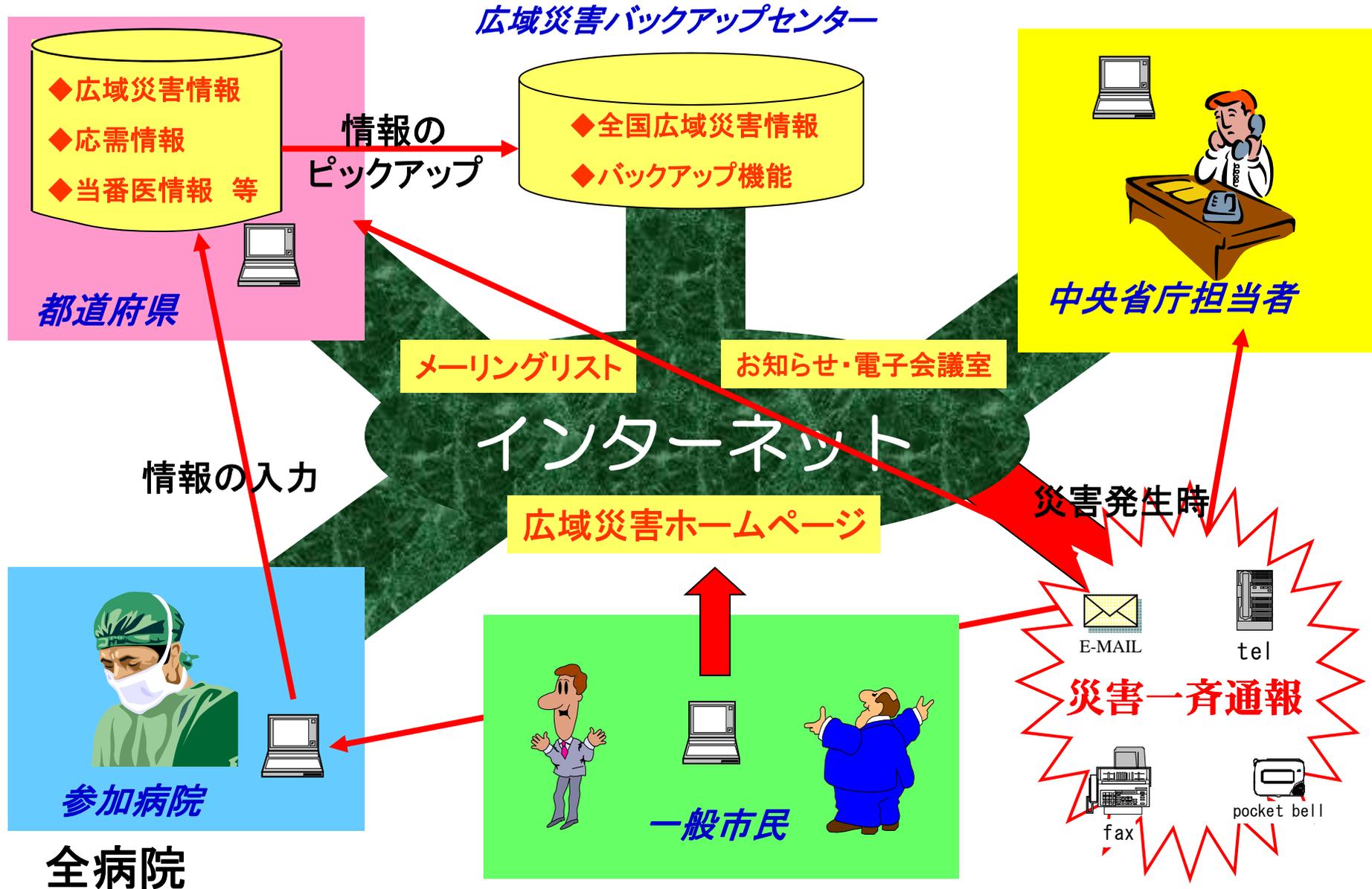
1033

7

147.6



広域災害・救急医療情報システム



EMISの特徴

- 医療機関と行政、関係機関の情報共有ツール
- 共有する情報
 - 病院被害情報、患者受け入れ情報、避難所等情報
 - 病院のキャパシティー
 - DMAT活動状況、救護班活動状況
- 情報のリスト
 - 災害時に共有が必要な情報
 - 病院が発信すべき情報
 - 災害時病院マネージメントに必要な情報
 - 病院マネージメントツール

EMISの機能

- 災害時施設等情報
 - 対象: 全病院、診療所、避難所、救護所、施設等
 - 入力項目: 緊急入力と詳細入力
- 医療搬送患者情報
- 支援情報
 - 対象: DMAT、救護班
- 平時の施設情報
 - ベッド数、職員数等
- 緊急通報
 - 厚生労働省等への緊急通報機能を追加

需要

資源